

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

討議年月日:令和 6年 5月 4日

公表:令和 6年 5月 31日

事業所名: KIZUNA柴崎駅前

チェック項目		はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			・道具は整理整頓し、十分なスペースをとるよう配慮している。 ・訓練室は約70㎡あり、児発のお子さんは概ね2名～3名で行っているので十分なスペースとなっている	・特になし
	2 職員の配置数は適切である	3	3		・常時3～4名の職員を配置しており、国の定める基準に加配の職員も2名配置できている。 ・子どもの状況に応じて、事故のない様に職員の配置をしている。	・人数については、引き続き法令を遵守した配置を行うと共に、職員ひとりひとりのスキルアップを図る事でより安全で質の高い療育を提供できるような努めていく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	3		・必要な場所には絵カード等を使用してわかりやすいように工夫している。また、余計なものは置かず何処に何処にあるのか見渡してわかるようにしている。	・特になし
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1		・振り返りの際に、子どもの行動の原因と予防(改善)について話している。目標については個別支援計画書の策定会議を実施し、指導員の意見も反映している。また一日の始まりと終わりに、現場改善点やヒヤリハット、当日の通所児童全員の振り返りを当日の全職員で行っている。	・振り返りについては、その日の様子(出来事)のみを振り返るのではなく、目標に対してどうだったのか、アプローチに対しての児童の様子や、それを踏まえ次回はどうな風にアプローチしていくかなど職員全体で意見を出し合い質の高い振り返りができるようにしていく。
	5 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			・自己評価アンケートや定期的なヒアリングの際に頂いたご意見やご要望を踏まえながら、可能な限りニーズに沿ったサービス提供ができるよう職員間で検討し、業務改善に繋げている。	・特になし
	6 事業所向け自己評価公表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			・自己評価については、公式ホームページ上で公開している。	・評価結果を踏まえた改善目標について、職員間で検討を行う機会を増やして行く。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2		・第三者評価を3年に一度行っており、職員間で話し合いを行い改善すべき点については改善に努めている。	・特になし
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2		・昨年度末に外部顧問を招き、全事業所合同での研修を実施した。また職員に研修情報を周知し様々な研修に参加するよう努めている。	・研修を受けた職員が、事業所内で他職員に対し内容の共有を行うようにしていく。 ・今後は、コロナも規制が緩和されたため、集合研修の機会を増やしていく。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

討議年月日:令和 6年 5月 4日

公表:令和 6年 5月 31日

事業所名: KIZUNA柴崎駅前

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	9	4	2		・主観的にならないように、支援計画は利用者ニーズを踏まえ、児発管と指導員全員で検討し作成している。	・保護者への面談やフィードバックを通して保護者のニーズは把握するようにしている。 心理士による、アセスメントも必要に応じて作成している。
	10	3	3		・試験的に専門職(理学療法士、作業療法士等)によるアセスメント評価を行い、結果を指導員に共有することで実際の支援に活かしている。	・現在行っているアセスメント評価の標準化に向け、運動・感覚に特化したツールを用いて、専門職(理学療法士、作業療法士等)が中心に行っていく。
	11	5	1		・現状は、本人支援が中心となっており、その中では具体的な支援内容を記載している。	・令和6年度の報酬改定において、本人支援以外に、家族支援や移行支援も必須要件となったため、保護者への説明も含め実施していく。
	12	6			・各クラスごとに振り返りで目標の確認内容の確認をし、計画に沿った支援を行っている。	・療育中も常に個々の課題や目標を意識すると共に、必要に応じて計画の見直しを行っているよう努めて行く。
	13	6			・専門的な運動プログラムは運動担当者が主となり作成している。また、ニーズに応じ、プログラムを柔軟に対応できるようにしている。 ・どの職員でもリードが取れるよう職員間でプログラムの共有を行っている。	・職員間でのミーティングの際に、次回のプログラムについて専門職、指導員全体で相談を行っている。
	14	6			・運動はクラス毎、週毎にプログラムを変えるだけでなく、特性に応じ、またその日の子どもの様子に応じてフレキシブルに変えている。 ・新しい運動内容も調べて職員同士で提案をして日々研鑽を行っている。	・前回の運動内容の記録もよりわかりやすく確認できる体制も作っていきたい。
	15	5	1		・個別の身体感覚、気持ちの切り替えなどを目標に加え、集団のルール理解やチームビルディングなども目標に組み込み、個別と集団の両面の内容を組み合わせて作成するよう心がけている。	・今後は、本人支援については5療育(健康生活、運動感覚、認知行動、言語コミュニケーション、社会性人間関係)を取り入れ作成していく。
	16	6			・誰がどの担当につかを決め、その上での注意点など共有している。 ・支援開始前には当日来所児童全員の前回活動時の様子や配慮事項の確認、プログラムの共有、指導員の配置(役割分担)の確認等、念入りの打ち合わせを毎回行っている。	・より一層児童の特性理解を職員間で話し合い、普段当事業所に勤務していない応援職員にも欠かさずに行っていく。
	17	6			・支援終了後には一人ひとりの子どもの様子を振り返り、書面に残すと共に次回支援に繋がるよう課題や活動内容、提示法等の検討を行っている。	・今以上に、PDCAの仕組みを理解して、個別支援計画中心のミーティングを行っていく。
	18	6			・書面にて記録をとると共にデータとしても残り、次回以降の支援に繋げている。 ・保護者からの共有事項も欠かさずに連携している。	・今後は、専門的支援実施計画に基づく記録もしっかりとっていく。
19	6			・指導員の記録している振り返りシートとサービス提供記録に必ず目を通し、子どもの活動時の様子をモニタリングを行っている。	・子ども家庭庁からの通達に基づき、モニタリング方法も改善していく。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

討議年月日:令和 6年 5月 4日

公表:令和 6年 5月 31日

事業所名: KIZUNA柴崎駅前

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関係 機関 や 保護 者 と の 連 携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	3		・依頼の頻度は少ないが、参加する場合は主に児発管が出席し、場合に応じて必要な指導員が出席している。	・今後は連携加算の対象にもなっているため、依頼があった際は積極的に対応していきたい。	
	21 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	3		・ケースに応じて複数の関係機関と連携しているが、頻度は多くない。	・お子さんの状況に応じ、必要な対応を行ってきたい。	
	22 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/	/		・特になし	・医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子どもの通所が今のところない。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/	/		・特になし	・医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子どもの通所が今のところない。
	24 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	3		・個別ニーズに応じて、保護者を介して、個別支援計画書の共有等を行っている。	・令和6年度の報酬改定において、本人支援以外に、家族支援や移行支援も必須要件となったため、保護者への説明も含め実施していく。	
	25 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	3		・保護者の方から要望があった際には、相談支援を通し支援学級への連絡を図っている。その後の様子なども保護者の方から聞き取りを行ない、相互理解を深めるよう努めている。 ・進学時に放課後等デイサービスを利用するお子さんに対しては、少人数であるが移行支援を行っている。	・令和6年度の報酬改定において、本人支援以外に、家族支援や移行支援も必須要件となったため、保護者への説明も含め実施していく。	
	26 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		・調布子ども発達センターの公開療育や様々な研修には積極的に基本常勤全職員が参加している。 ・幅広い職員を対象とした外部講師からの研修の場を設けている。昨年度は感覚統合についての共通理解を深める研修を受講した。	・今後も必要に応じて連携を図っていく。	
	27 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	2		・今年は3月に地域交流として、障害の有無関係なくスポーツイベントを開催した。イベントは利用者の兄弟児の参加も含め、幅広い年齢のお子様と関わる機会となっている。	・通所している児童は概ね保育所等に通っているお子様が殆どのため、保育園や幼稚園で障がいのない子どもと活動してからの来所なので、今のところスポーツイベント以外はそのような機会を設けていない。	
	28 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	2		・協議会や地域連絡会には、機会があれば主に児発管が積極的に参加している。	・今後も必要に応じて連携を図っていく。	
	29 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1		・毎時のフィードバックの際や個別支援計画書の更新面談の際等に、お子様の課題や近況等についての情報共有を図っている。	・職員全体が最新の情報を把握できるよう、職員間での連携強化を進めると共に、保護者からの相談などがあった際には柔軟な対応や提案が出来るよう努めている。	
30 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	3		・個別の相談事項に対して、助言やアドバイス等を行ったり、見学室に作業療法士作成の感覚統合についての冊子を置くようにした。	・ペアレントトレーニングという形での実施は無い為、今後、研修などを通して職員のスキルアップと知識の向上を図り、将来的に実施出来るようにしていく。		

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

討議年月日:令和 6年 5月 4日

公表:令和 6年 5月 31日

事業所名: KIZUNA柴崎駅前

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			・契約書と重要事項説明書の内容については、契約時に直接説明を行い、その場で疑問点などがあれば解消できるようにしている。運営規定については、親御様が自由に閲覧できるファイルを用いて周知している。	・契約時においては説明しているが、その後は特に行うことはないので、保護者からの質問を受けやすい環境にしていきたい。
	32	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			・児童発達支援の提供すべき支援のねらいに基づき、6ヶ月以内に1回作成し保護者から同意を得ている。	・今後は、本人支援に5領域が入り、発達支援に本人支援以外に、家族支援や移行支援、必要に王子地域支援(連携)が盛り込まれてくるため、その内容を説明した上で同意を得ていきたい。
	33	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			・面談以外でも、ご相談があれば適宜丁寧な対応を心掛けている。また必要に応じ改めて時間を設けている。	・家族支援の一環として対応していきたい。
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	3		・父母の会に参加をされている保護者の方から「おやのかい」のパンフレット設置依頼をお受けしている。必要に応じて、利用者の方にパンフレットのお渡しやご紹介を行なっている。	・今後は、保護者ニーズを踏まえながら開催の検討をしていく。
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			・相談や申入れがあった際には適宜、適切かつ迅速に対応をしている。	・今後も児発管が中心となり、適切に対応していく。
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	3		・定期会報は発行していないが、特別プログラムのご案内や保護者会の様子等は、掲示物を作成すると共に公式LINEを通じて、情報発信を行っている。新入社員紹介や連絡事項は事業所内の分かりやすい場所に掲示している。	・必要に応じて、今後ホームページ上でも発信していく。
	37	個人情報の取扱いに十分注意している	5	1		・個人情報と思われる資料、個人名の入った書類等はカギ付き書庫の中に保管し、処分する時はシュレッダーしている。	・個人情報へのアクセスについては、まだ不十分な面があるため、今後必要に応じ対応していく。
	38	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1		・口頭のみならず、書面で伝える等、先方の事情を考慮し対応している。	・特になし
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3		・令和6年3月に調布教室と合同で地域交流イベント(スポーツイベント)を実施した。	・今年度も同様に実施していく。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

討議年月日:令和 6年 5月 4日

公表:令和 6年 5月 31日

事業所名: KIZUNA柴崎駅前

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	40 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	2		・緊急時対応マニュアル及び感染症対応マニュアルは、保護者閲覧用ファイルにて周知できるようにしている。	・BCP対策として整合性の取れる体制にしてい
	41 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1		・前年度は8月と3月に実施した。今年度も必ず実施する。	・今後も毎年定期的に行う災害発生時に対応できる体制を整えていく。
	42 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			・基本情報としてフェイスシートにて提出をお願いしている。また、服薬変更や医師より指示があった場合には都度お知らせいただいている。	・服薬や医師の指示にもとづいて運動している児童に関しては、定期的にヒヤリングを行い状況の確認をしていく。
	43 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	/	/	/	・アレルギーがあるお子様については、提供記録に記載し、毎時確認出来るようにしている。 ・現在、食事提供の機会はなく、また医師の指示書があるご利用者様の該当もない。	・現在食事提供の機会はないが、今後個人の写真の裏に記入するなどの工夫を進めたい。
	44 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1		・ヒヤリハットが起きた際にはレポートを作成し、振り返りを職員間で行い改善案を当日中に話し合っている。	・ヒヤリハットは積極的に報告していき事例の数を増やし重大なアクシデントを防止できる体制を整えていく。
	45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	2		・虐待防止に関わるセルフチェックを全職員に対して定期的に行っている。 ・東京都主催の虐待、身体拘束研修、調布市主催の虐待、身体拘束研修に必ず様々な職員が参加し、事業所内で研修内容の共有を図っている。	・毎年法人全体で虐待防止委員会を実施し、方針、マニュアルの確認を行っていく。今後も徹底、周知、事例検討を行い、年に1回虐待防止に関わる全職員のセルフチェック及び事業所内での研修を継続していく。
	46 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			・法人単位で身体拘束適正化委員会を設置し、代表者が参画し、指針整備を行っている。	・身体拘束の適正化については運営規程に明記し、研修等の機会を通じて職員にも周知することで適切な対応を図っている。保護者に対しても必要のある児童の個別支援計画書に記載し、契約時にお伝えしていくようにする。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。